

褐斑病の前年多発園において、早期に初発生が確認されました。 前年多発園では、防除を徹底しましょう。

現在の状況

- 1 基準圃場（北上市成田）では、例年より早い6月第1半旬に初発生が確認された。
- 2 前年に多発した県中部及び県南部の2圃場では5月後半及び6月前半の巡回調査にて初発が確認された（写真1）。
- 3 前年収穫期の発生圃場率は71.0%（平年48.4%）で平年よりも高く、伝染源密度が高いと考えられる。

防除対策

- 1 前年発生園では、二次伝染防止のため6月下旬にマンゼブ水和剤および7月上旬にパスポート顆粒水和剤を選択する。
- 2 前年多発園では、上記の防除に加え、7月中旬にトップジンM水和剤またはベンレート水和剤を特別散布する。ただし、ラビライト水和剤を既に使用した場合には、耐性菌対策のためにこの時期には使用せず、ユニックス顆粒水和剤47を使用する。
- 3 秋期まで、本病に効果のある薬剤で定期防除を行い、降雨前の薬剤散布を心がける。
- 4 散布むらが発生要因となるので、樹全体に十分薬液が付着するよう心がける。



写真1 褐斑病の初期病斑
(褐色斑点中央部の黒点が特徴)

【利用上の注意】

☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

本資料は、令和2年5月27日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆病害虫防除に関する情報は、いわてアグリベンチャーネット

(<https://i-agri.net/Index/gate003>)からご覧いただけます。